

プロ選手と楽しく交流

姫路聴覚特別支援学校でバスケット指導

3人制バスケットボール大会「3×3. EX E PREMIERE」のリーグ戦が7月19日に

大手取組園(姫路市)で開催された。大会の機運を醸成するため、本大会に出場した県内初となる3人制バスケットボールプロチーム「E.P.I.C. EXE(エピック・ドット・エグゼ)」の選手らが、7月19日と20日の2日間、雨天時の会場となる姫路聴覚特別支援学校(姫路市)を訪れ、生徒たちと交流会を行った。

19日は重本和毅選手とフリオ・デ・アシス選手が同校を訪問。小学部の生徒24名が参加した。交流会では仕事をしながら競技を続け、充実した日々を過ごす選手たちの思いを伝える講義のほか、ハンドリングやシュートなどプロのテクニックを披露すると、歓声が上がった。その後も



ボールを使ったゲームやドリブルをしながらタッチシエをするなど楽しく交流した。選手からシュートのコツを教わると、次第に入ることになり、シュート決まると大に盛り上がった。子どもたちはバスケットボールを楽しく、魅力を感じている

ようだった。また、今回の交流をきっかけに子どもたちがバスケットボールに興味を持つきっかけになると、同校へボールの寄贈式も行われた。(担当:県民生活部文化スポーツ課スポーツ振興課)

災害時の外国人県民支援議論 兵庫県外国人県民共生会議

7月14日、国際性豊かな地域として発展してきた兵庫県は、共に理解し共に支え合う多文化共生社会を一層推進するため、外国人県民に関する課題について外国人県民団体等と意見交換を行う「兵庫県外国人県民共生会議」を県庁2号館で開催した。

参加したのは齋藤知事、兵庫県市長会連合会長、兵庫県町村会連合会長と外国人団体・外国人支援団体から11名が計25名。

兵庫県内には2024年末時点で約14万2千人の外国人県民が生活しており、全国へと着目も多く、近年は国籍の多様化や地域分散化が進んでいる。

外国人県民に対する行政の政策は、国の所管と自治体を中心となって担うものの大きく2つに分かれている。国は入国及び在留に関するルールを守り、自治体を中心となって担うのは、多文化共生(外国人を含む全ての県民が互いの文

化や伝統を認め合い、共生できる社会の構築を目指す)である。

齋藤知事はあいさつで「兵庫県では地域の実情に応じた自主的な課題解決に重点を置いた『多文化共生ネットワーク会議』を各地域で開催するなど、日本人県民と外国人県民が共に暮らす社会づくりを進めている。本会議は外国人県民が抱える様々な課題に対する対応策を検討する場であり、阪神・淡路大震災から30年の節目を迎えるに

あたり『災害時の外国人県民の安全と安心』をテーマに議論を行う」と述べた。

(担当:産業労働部国際民間国際課)



夏の交通 兵庫県

夏の時期は、休暇等により交通流・量が変化することに加えて、日中の暑さを避けて朝夕に定着する高齢者や夏休みに海外へ活動する子どもなど

令和7年度
夏の交通事故防止運動
やさしさと笑顔で走る 兵庫の道
令和7年7月15日(火)～7月24日(木)
ちとだけ

一外交の視点から国際理解深める一
外務省職員が姫路飾西高で講演